

# DAICEL TODAY

株主の皆様へ

第152期 報告書

2017年4月1日～2018年3月31日

**DAICEL**  
株式会社 **ダイセル**

化学で  
未来を  
変えるの

ダイセル

株式会社 **ダイセル**

証券コード：4202

特集

**ダイセルグループの挑戦**

エレクトロニクス分野での新規事業展開

# 中期計画「3D-Ⅲ」の初年度、 新規事業創出などに全力で取り組んでいます



平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
ダイセルグループの第152期(2017年度)の事業の  
概況につきまして、ご報告申し上げます。

2018年6月

代表取締役社長 **札場 操**

## 2017年度の業績について

—販売数量増加や販売価格改定などにより増収となったものの、原燃料価格上昇や一部主要製品の市況軟化、火災事故の影響を受け、減益となりました

当期の世界経済は、中国で景気の持ち直しの動きがみられるとともに、欧米や日本では景気の緩やかな回復基調が続きました。

このような環境の中、当社グループでは、自動車エアバッグ用インフレーターやエンジニアリングプラスチックの販売数量を伸ばすとともに、販売価格改定や継続したコストダウンなどを行い、業績の向上に懸命に取り組んでまいりました。一方で、原燃料価格の上昇や一部主要製品の市況軟化、昨年7月に当社大竹工場(広島県大竹市)で発生した火災事故の影響を受けました。

その結果、当期の業績は売上高4,630億円、営業利

益589億円、経常利益611億円、親会社株主に帰属する当期純利益371億円と、前年度と比較して増収減益となりました。

なお、大竹工場の火災事故に関しましては、昨年11月に安全を最優先に発災プラントを再稼動させ、12月から製品である過酢酸誘導体の製造を再開しております。

### ▶ 2017年度 通期業績

(単位:億円)

	2016年度	2017年度	増減	増減率
売上高	4,401	<b>4,630</b>	<b>+229</b>	<b>+5.2%</b>
営業利益	643	<b>589</b>	<b>△54</b>	<b>△8.4%</b>
経常利益	662	<b>611</b>	<b>△51</b>	<b>△7.7%</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	432	<b>371</b>	<b>△61</b>	<b>△14.2%</b>

### ▶ 株主還元の様状

期末配当	1株につき <b>16</b> 円
年間配当	1株につき <b>32</b> 円(前年度から2円増)

## 株主還元について

### — 年間配当は32円、自己株式取得も実施しました

配当につきましては、前年度比で1株当たり2円増配し、年間32円(期末16円)とさせていただきます。配当性向は、29.7%となります。また、昨年8月に決定した自己株式取得につきましては、今年1月31日までに、約100億円、750万株の取得を実施いたしました。

## 中期計画「3D-Ⅲ」の進捗状況 (2017年度の取り組み)

### — 活発なコミュニケーションによるコンカレント・エンジニアリングや社外とのオープンイノベーションを推進し、新規事業の創出・育成に挑戦しています

昨年4月には、兵庫県姫路市に所在する総合研究所と姫路技術本社を、当社の技術を結集する「イノベーション・パーク」として集約、新棟「アイ・キューブ(iCube)」を建設し、活発なコミュニケーションによるコンカレント・エンジニアリングや社外とのオープンイノベーションを推進できる環境を整え、技術者の働き方の変革にも取り組んでいます。そして、既存事業領域における新製品開発やコストダウンの取り組みに加え、成長が見込める電子材料や、メディカル・ヘルスケア等の高付加価値領域における新規事業の創出・育成にも挑戦しています。また、より細分化した事業単位で成長性や収益性を見極めることで、経営資源の傾斜配置に取り組むとともに、働き方変革による生産性の向上にも取り組んでいます。

今後もさまざまな取り組みを通じて、さらなる安全と品質の確保・向上にまい進し、広く社会に信頼される会社を目指すとともに、事業基盤の強化に向けて総力を挙げて取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 2017年度(第152期)実績

販売数量増加や販売価格改定などにより増収となったものの、原燃料価格上昇や一部主要製品の市況軟化、火災事故の影響を受け、減益となりました。

売上高  
**4,630**億円  
(前年度比5.2%増)

営業利益  
**589**億円  
(前年度比8.4%減)

経常利益  
**611**億円  
(前年度比7.7%減)

親会社株主に帰属する当期純利益  
**371**億円  
(前年度比14.2%減)

## 2018年度(第153期)予想

エンジニアリングプラスチックを中心に販売数量の増加を見込むものの、一部主要製品の市況軟化や研究開発費の増加などにより、増収減益の見通しです。

売上高  
**4,780**億円  
(前年度比3.2%増)

営業利益  
**510**億円  
(前年度比13.5%減)

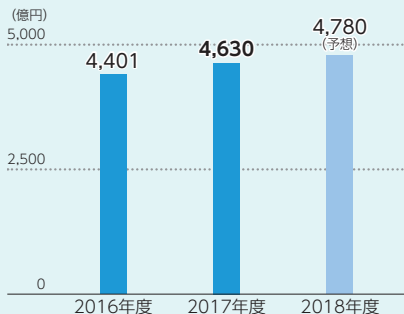
経常利益  
**530**億円  
(前年度比13.2%減)

親会社株主に帰属する当期純利益  
**370**億円  
(前年度比0.2%減)

### 決算ハイライト

売上高  
**4,630**億円

前年度比  
5.2%増



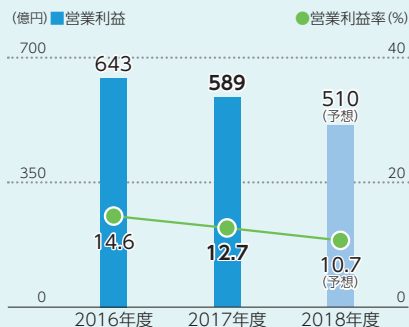
営業利益  
**589**億円

前年度比  
8.4%減

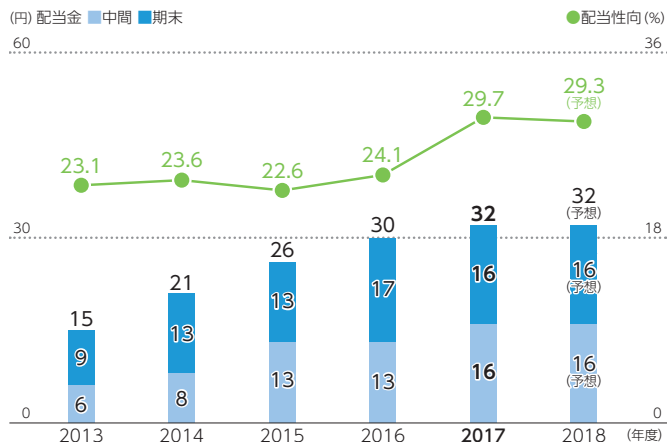


営業利益率  
**12.7%**

前年度比  
1.9%減



## 株主還元について



### 中期計画3D-Ⅲでの目標 ▶▶ 配当性向 **30%**

2017年度は、750万株、約100億円の自己株式取得を実施しました。  
また、2018年度は830万株、100億円を上限とする自己株式取得を予定しています。

## TOPICS

IR活動の詳細につきましては、  
当社IR情報サイトをご参照ください。



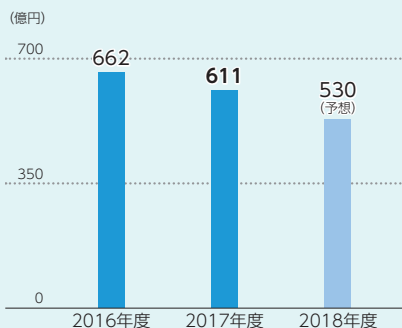
<https://www.daicel.com/ir/>

ダイセル IR 検索

### 経常利益

**611** 億円

前年度比  
7.7%減



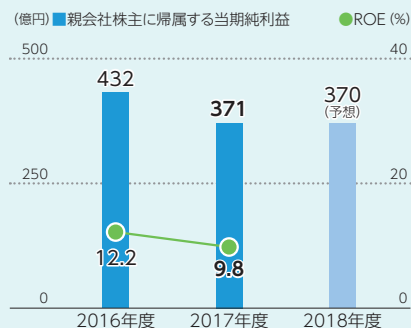
### 親会社株主に帰属 する当期純利益

**371** 億円

前年度比  
14.2%減



ROE  
**9.8%**



売上高  
構成比

19.2%

17.7%

営業利益  
構成比

26.4%

10.7%

## セルロース事業部門

### 主要製品

- 酢酸セルロース
- たばこフィルター用アセテート・トウ
- 水溶性高分子



### 事業概況

酢酸セルロースは、液晶表示向けフィルム用途の販売数量が減少したものの、その他用途の販売数量が増加したことなどにより、売上高は横這いとなりました。たばこフィルター用トウは、世界的に需給が緩んでいる中、主要顧客との関係強化や新規顧客開拓による販売数量の増加、為替の影響があったものの、市況軟化の影響を受け、売上高は微減となりました。

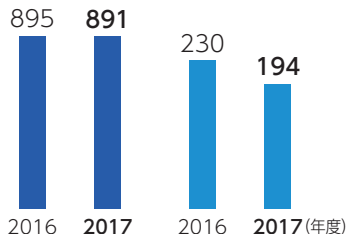
### 売上高

891億円

前年度比0.5%減



■ 売上高(億円) ■ 営業利益(億円)



### 営業利益

194億円

前年度比15.9%減



## 有機合成事業部門

### 主要製品

- 酢酸および有機合成品
- 有機機能品
- 光学異性体分離カラム



### 事業概況

酢酸は市況の上昇などにより、合成品は販売数量の増加や原料価格の上昇に伴う販売価格の改定などにより、それぞれ売上高は増加しました。機能品は、大竹工場で発生した火災事故の影響で販売数量が減少したものの、電子材料分野やコスメ・ヘルスケア分野の需要が堅調に推移したことなどにより、売上高は横這いとなりました。キラル分離事業は、カラムや充填剤の販売増加とインドでの新規事業の伸びなどにより、売上高は増加しました。

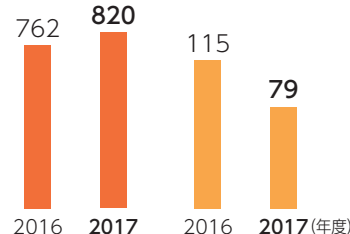
### 売上高

820億円

前年度比7.7%増



■ 売上高(億円) ■ 営業利益(億円)



### 営業利益

79億円

前年度比31.4%減



■セルロース事業部門 ■有機合成事業部門 ■合成樹脂事業部門 ■火工品事業部門 ■その他部門

※営業利益構成比は、調整額を除いて算出しております。



## 合成樹脂事業部門

### 主要製品

- エンジニアリングプラスチック
- 樹脂コンパウンド製品
- 合成樹脂成形加工品

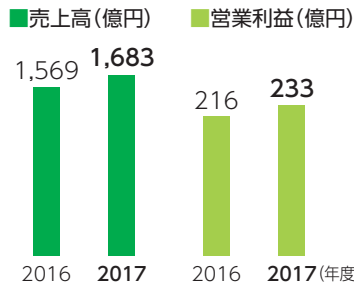


### 事業概況

エンジニアリングプラスチック事業は、自動車部品およびスマートフォン向けの需要増加による販売数量の増加、原燃料価格上昇に伴う販売価格の改定、為替の影響などにより、売上高は増加しました。樹脂コンパウンド事業は、海外を中心に販売数量が減少したものの、原燃料価格上昇に伴う販売価格の改定や為替の影響などにより、売上高は増加しました。樹脂加工事業は、シートの販売が減少し、売上高は減少しました。

### 売上高

**1,683**億円  
前年度比7.2%増



### 営業利益

**233**億円  
前年度比7.9%増



## 火工品事業部門

### 主要製品

- 自動車エアバッグ用インフレーター
- 防衛関連製品

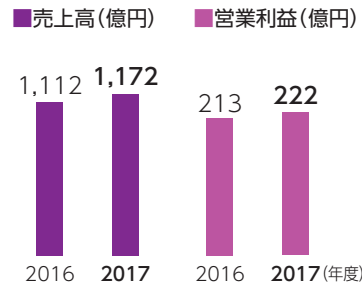


### 事業概況

自動車安全部品事業は、インフレータの販売数量増加や為替の影響などにより、売上高は増加しました。防衛関連製品などの特機事業は、一部製品の防衛省による調達数量減少により、売上高は減少いたしました。

### 売上高

**1,172**億円  
前年度比5.4%増



### 営業利益

**222**億円  
前年度比4.2%増



その他部門 売上高 **64**億円(前年度比2.4%増) 営業利益 **8**億円(前年度比1.6%増)

◆視認性・強度・使用感を高める高機能フィルム

## ディスプレイの表面に、 新しい機能を提供するフィルム

中期計画「3D-Ⅲ」では、メディカル・ヘルスケア領域、エレクトロニクス領域を新たなビジネスユニット候補とし、新商材の開発や、既存、新規、それぞれの商材の成長を加速させることに注力しています。本特集では、エレクトロニクス領域から、ディスプレイ表面にさまざまな機能を加える「高機能フィルム」をご紹介します。

### ダイセルグループのフィルム事業

フィルム事業の歴史は古く、創業当初より写真フィルムの国産化を手掛け、1932年のセロハンフィルム事業開始後、コーティングにより防湿性を持たせた日本初の機能フィルムの開発・事業化に成功しました。その後、用途に応じたフィルムを次々と開発し、菓子、食品類や使い捨てカイロなどの包装用フィルムに広く使用されています。

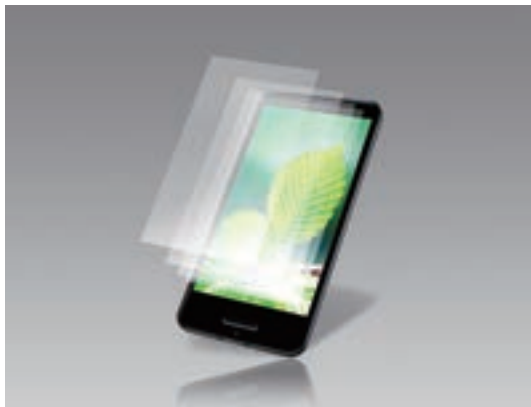
エレクトロニクス分野でも、1980年代初頭には、広くタッチパネルに使用される透明導電性（ITO）フィルムにいち早く注目し、フィルム製造からタッチパネルまでの一貫製造ラインを導入し事業化しました。



タッチパネルを使用した電子手帳など(1980年代当時)



## ■ エレクトロニクス分野で広がるダイセルの高機能フィルム



### 当社の製品（エレクトロニクス分野）

- 低ギラツキAGフィルム
- 反射防止ARフィルム ● ペン入力フィルム
- さらに触感AGフィルム など

現在は、独自の素材やコーティング技術を駆使して、高精細ディスプレイでもギラツキが少ないアンチグレア（AG）フィルムや、ナチュラルな色相を持つAR（Anti-Reflection、反射防止）フィルムなど、様々な用途に対応できるハードコートフィルムを開発、製造しています。パソコンやタッチパネル、モニターなどのほか、最近ではより高精細な視認性が要求される医療用モニターやゲーム専用PC、光の映り込みを避けたいデジタルサイネージ（電子看板）や航空機用モニターといった製品で評価され、採用が進んでいます。ほかにも、たとえば紙と鉛筆の書き心地を表現したフィルムは、教育現場で生徒が使用するペン入力タブレットや電子黒板、電子辞書といった製品で評価されています。

## ■ 自動車分野や海外への展開

運転席のメータ類やオーディオ、ミラー類の液晶化、カーナビの大画面化や高精細化など、車載ディスプレイでもフィルムに求められる機能や用途が多様化しています。当社グループの製品は、車載ディスプレイでも幅広く採用されており、強みが活かせるこの分野での開発・販売をより一層進めていきます。また、技術的な強みを持つ企業との協業はもちろん、M&Aも視野に入れた事業展開と共に、中国などの成長市場に拠点を設置するなど、海外展開も積極的に進めています。



## Jリーグ、ガンバ大阪と ダイヤモンドパートナー契約を締結

2018年2月1日より、サッカーJリーグ・ガンバ大阪にダイヤモンドパートナーとして協賛しています。2018・19シーズンの公式戦で着用するユニフォームの鎖骨部分へ「DAICEL」ブランドロゴを掲出しています。



新ユニフォームパートナー発表会見  
(2018年1月20日)にて、新加入選手  
と当社代表取締役専務執行役員 福  
田 眞澄(左から菅沼選手、当社福田、  
矢島選手、谷選手)

機能性食品素材を紹介するWebサイト

# 「美と健康に響く大地のチカラ」を開設

～健康・美容に関連する情報を発信しています～



当社では、天然物から発酵技術や抽出技術を駆使して、大豆由来のエクオール、こんにやくイモ由来のセラミド、牛乳由来のラクトビオン酸、温州みかん由来のβ-クリプトキサンチンなどのユニークな機能性食品素材の製品開発を行っています。それぞれの素材が持つ特徴(チカラ)をより多くの方に、わかりやすく知っていただくために、Webサイト「美と健康に響く大地のチカラ」を開設しました。



素材の特徴や健康や美容に関する情報を詳しく発信しています。ぜひ、ご覧ください！

機能性食品素材情報サイト

<https://www.daicel-health.jp/>

ダイセル 美と健康

検索

## 「健康経営優良法人2018～ ホワイト500～」に認定されました

当社は、「こころのケア」「からだのケア」を活動のテーマとして、労使および健康保険組合で組織する中央・事業場ヘルスケア委員会、産業保健スタッフ(産業医、保健師等)、精神科医等が連携を図り、メンタルヘルス不調者の復職支援をはじめ、不調者の早期発見・早期対応のための予防教育、仕組み整備など、心と体の両面から健康の維持向上に取り組んでいます。

今後も、社員が健康でいきいきと働くということが、社員個々の生活の充実と会社の発展の両立に欠かせないという考えのもと、「健康づくり」を経営課題と捉え、組織的に活動を進めてまいります。

※「健康経営優良法人制度」とは、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人が顕彰される制度です。健康経営の更なる裾野拡大を目的に、経済産業省と日本健康会議が共同で主体となり、健康経営の実践にあたっての「経営理念」「組織体制」「制度・施策実行」「評価・改善」「法令遵守・リスクマネジメント」の5つの認定基準と、具体的な取り組み内容を元に評価されます。



### 「こころのケア」

- グループ全体で2017年度ストレスチェック受検率99%を達成、職場分析結果に基づき職場の環境改善の取り組みを推進
- メンタルヘルス不調者へのフォロー体制強化のため、精神科医4名で担当地域を分割し、それぞれの地域担当として、よりきめ細かい対応が行える体制を構築しており、再燃や休業期間の低減に繋がっています。

### 「からだのケア」

健保と会社が連携し、特定健診実施率90%、特定保健指導60%の国の目標値の達成を目標に取り組みを強化しています。

## 「平成30年度 知財功労賞」を受賞しました

知財功労賞は、知的財産制度を有効活用し、制度の円滑な運営・発展に貢献した企業などを特許庁が表彰する制度で、1987年に創設されました。



当社は、特許活用優良企業として、特許庁長官表彰を受賞しました。受賞の理由として、①事業部門・研究開発部門・知財部門が連携して活動していること、②産学連携で事業化した医薬品開発用の光学分割デバイス(キラル分離)が、知財活用によりビジネスシェアトップであること、③「ダイセル式」と呼ばれる「知的統合生産システム」のライセンスを通じ、国内産業の生産性向上、国際競争力強化に貢献していること、が評価されました。

CSR活動の詳細につきましては、  
当社CSR情報サイトを  
ご参照ください。

<https://www.daicel.com/csr/>

ダイセル CSR

検索

より詳細なデータにつきましては、当社IR情報サイトをご参照ください。

<https://www.daicel.com/ir/irlibrary.html> ダイセル IR 検索

		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
売上高	(億円)	4,138	4,438	4,499	4,401	4,630
営業利益	(億円)	379	513	643	643	589
売上高営業利益率	(%)	9.2	11.6	14.3	14.6	12.7
経常利益	(億円)	414	551	654	662	611
親会社株主に帰属する 当期純利益	(億円)	228	313	403	432	371
総資本純利益率 (ROA)	(%)	4.7	5.8	7.2	7.4	6.0
自己資本純利益率 (ROE)	(%)	9.0	10.5	12.2	12.2	9.8
自己資本比率	(%)	52.7	57.3	60.2	61.6	59.8
総資産	(億円)	5,098	5,653	5,602	5,997	6,441
純資産	(億円)	2,958	3,562	3,687	3,994	4,135
1株当たり当期純利益	(円)	64.98	88.95	115.02	124.61	107.81
1株当たり純資産額	(円)	764.51	922.71	966.36	1,067.63	1,136.32
1株当たり配当金	(円)	15	21	26	30	32
配当性向	(%)	23.1	23.6	22.6	24.1	29.7

## 用語解説

### ▶ 総資本純利益率 (ROA: Return On Asset)

純利益を、総資本で割ったものであり、会社が調達したお金(自己資本+他人資本)を使ってどのくらい利益を出したかを表す。

親会社株主に帰属する  
当期純利益  
——  
総資本

### ▶ 自己資本純利益率 (ROE: Return On Equity)

純利益を、自己資本で割ったものであり、株主から拠出された資金を活用して、どのくらい利益を出したかを表す。

親会社株主に帰属する  
当期純利益  
——  
自己資本

## 会社概要 (2018年3月31日現在)

**商号** 株式会社ダイセル  
**英文商号** Daicel Corporation  
**大阪本社** 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1  
 (グランフロント大阪 タワーB)  
 Tel. 06-7639-7171  
**東京本社** 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1  
 (JR品川イーストビル)  
 Tel. 03-6711-8111  
**設立** 1919年9月8日  
**資本金** 362億7,544万89円  
**従業員数** 連結:12,309名 単独:2,354名  
**役員**

### 取締役

代表取締役社長 札幌 操\*  
 代表取締役 福田 眞澄\*  
 取締役 小河 義美\*  
 取締役 西村 久雄\*  
 社外取締役 岡田 明重  
 社外取締役 近藤 忠夫  
 社外取締役 下崎千代子  
 社外取締役 野木森雅郁

\*執行役員兼務者

### 監査役

常勤監査役 井口 友二  
 常勤監査役 榊田 宏安  
 社外監査役 岡本 啓衛  
 社外監査役 高野 利雄  
 社外監査役 市田 龍

### 執行役員

社長執行役員 札幌 操  
 専務執行役員 福田 眞澄  
 専務執行役員 小河 義美  
 常務執行役員 西村 久雄  
 常務執行役員 安藤 隆彦  
 常務執行役員 Dieter Heckmann  
 常務執行役員 児島 秀景  
 常務執行役員 上野 貴史  
 常務執行役員 今中 久典  
 常務執行役員 杉本幸太郎  
 執行役員 榊 康裕  
 執行役員 白子 直秀  
 執行役員 野中 哲昌  
 執行役員 阪本 聡  
 執行役員 吉野 幸男  
 執行役員 辻 康雄  
 執行役員 高部 昭久  
 執行役員 八木 幹夫  
 執行役員 川口 尚孝  
 執行役員 藤田 眞司  
 執行役員 丸山 浩一  
 執行役員 林 仁志  
 執行役員 高橋 郁夫  
 執行役員 藤尾 正昭  
 執行役員 飯山 尚志

## 株式情報 (2018年3月31日現在)

### 株式の状況

**発行可能株式総数** 1,450,000,000株  
**発行済株式の総数** 349,942,682株  
**株主数** 18,375名

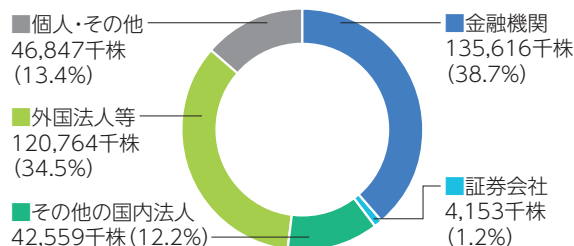
### 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,612	6.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,747	5.23
日本生命保険相互会社	17,402	5.13
トヨタ自動車株式会社	15,000	4.42
全国共済農業協同組合連合会	7,779	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,692	2.27
株式会社三井住友銀行	7,096	2.09
株式会社三菱東京UFJ銀行	6,503	1.91
富士フィルムホールディングス株式会社	5,769	1.70
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	5,446	1.60

(注) 1. 出資比率は、自己株式を控除して算出し、小数第3位以下を切り捨てて表示しております。

2. 株式会社三菱東京UFJ銀行は、2018年4月1日付けで、株式会社三菱UFJ銀行に商号変更されております。

### 所有者別株式分布状況



(注) 自己株式は、「個人・その他」に含まれております。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日より翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京
公告方法	電子公告 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。なお、電子公告は当社のホームページに掲載して行います。

### お知らせ

#### 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がない株主様(特別口座をご利用の株主様)は、特別口座の管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

#### 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## 株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きで必要となります。お届出がお済みでない株主様は、お取引の証券会社等の口座管理機関へお届出ください。

### 株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

### マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- ▶ 証券口座にて株式を管理されている株主様  
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- ▶ 証券会社とのお取引がない株主様  
下記までお問い合わせください。  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

## アニュアルレポート のご紹介

「ダイセルグループ  
アニュアルレポート2018  
～CSR & Financial  
Report～」を発行  
しました。



当社ホームページでご覧いただけます。

<https://www.daicel.com/csr/library.html>

● 株主様向け見学会開催のお知らせ ●

# ダイセルの新しい研究開発・ 生産技術拠点をこの機会に ぜひご覧ください。

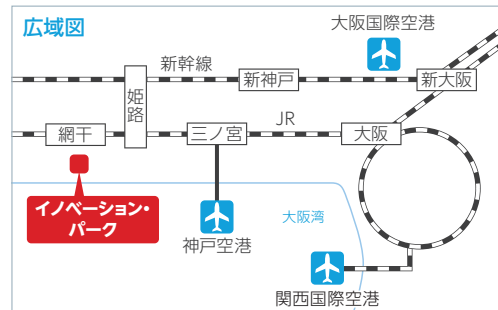


見学場所

イノベーション・パーク

株主の皆様にご案内の企業理念や事業内容に関するご理解をより深めていただくために、株主様向けの見学会を開催いたします。  
多くの皆様のご応募をお待ちしております。

見学施設	イノベーション・パーク (兵庫県姫路市網干区新在家1239)
実施日時	2018年9月14日(金) 12時～17時(予定)
対象者	2018年3月31日現在、 当社株式100株(単元株)以上を ご所有の株主様
集合・解散	JR姫路駅
参加費	無料(ただし、往復の交通費は 各自のご負担とさせていただきます)



## 応募要領

- 締切日** 2018年7月13日(金)必着
- 応募方法** 同封の応募はがきに必要事項を漏れなくご記入の上、  
切手(62円)を貼って、ご投函ください。  
※同封の情報保護シールをお貼りください。
- 募集人数** 30名(同伴者不可)

### 【その他】

- ・厳正な抽選の上、結果はご応募いただいた株主様全員に、郵送(8月中旬発送予定)にてお知らせします。その際、当選された株主様には、当日のスケジュール等詳細を併せてご連絡いたします。
- ・応募はがきに記載漏れ、誤記などの不備がございます場合、無効とさせていただきます。
- ・ご応募により当社が取得する個人情報、本施設見学会を実施する上で必要な限りにおいてのみ使用いたします。
- ・ご見学時は徒歩移動、バスの乗り降りおよび階段の昇り降りがございますので、あらかじめご了承ください。
- ・当社が撮影する施設見学会の写真・動画は、当社のウェブサイト、社内報やアニュアルレポートなどの印刷物、株主総会での映像などに掲載・使用させていただきます場合がございますので、あらかじめご了承ください。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社ダイセル 総務部 電話：06-7639-7171

**DAICEL**  
The Best Solution for You



FSC®認証紙と環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。



**UD FONT**

見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。